



羽合小学校 学校通信

平成26年7月1日 NO, 55

ゴールを目指せばよい

昨日ニュースを見ていると、オリンピックにマラソン代表選手として出場した川内優輝選手が、埼玉県陸上選手権大会1500Mに出場し優勝したとの報道がありました。この選手は埼玉県の職員として学校に勤務している方で、「日本最速の市民ランナー」とも呼ばれているようです。公務員として普通に勤務しているため、練習時間がなかなか取れないので、積極的に大会に参加する独特の練習を行っています。普通のマラソン選手は年間に1～2レースしか出場しませんが、川内選手は10レースぐらい走っています。今年も6月までに14の大会（駅伝やハーフマラソン等も含めて）に出場しています。たくさんレースに出て調整する川内メソッドと言われる調整法を取っています。

この選手が有名な理由はもうひとつ、走ってゴールした後、意識を失って医務室に運び込まれることがとっても多いことです。「自分は全力を出し切らないと、まわりの選手と戦うことができないから」との理由で、倒れ込むほど全力を出し切ってゴールに飛び込んでくるのですが、そこまで出し切れる人はなかなかいないのではないのでしょうか。

古い話で申し訳ありませんが、同じマラソン選手で君原健二さんは、走っていて苦しくなると「次の電柱まで走ろう」「次のポストまで走ろう」と身近で目に見える目標を立てて走っていたそうです。それでも「疲れてどうしても走れなかったら歩いてもいい」とも言っておられました。棄権してしまったらゴールにはたどり着けないからです。

川内選手も君原選手も競技者ですから、全力を出し切ってゴールを目指す事にかわりはありません。ただ、ゴールのめざし方にはいろいろあるんだなあと思いました。

わたしたちの生活の中にもたくさんの困難があります。苦しいときもあります。こどもたちの生活の中にもあります。その時「全力か棄権か」といった乗り越え方はあまりにも二者択一に過ぎるように思います。時に立ち止まり、時にとぼとぼ歩き、それでもゴールを目指していくといった事が大切なのだと思います。

マラソン選手は競技者ですから全力を求められますが、わたしたちに求められるのは「あきらめない粘り強さ」なのだと思います。

【7月は 6年生 学年公開月間です】

6年生が「憧れの6年生になろう!!」と目標に掲げて3ヶ月が過ぎました。運動会や遠足などの学校行事や委員会で、下級生に接する責任感にあふれる行動はすでにお知らせしたとおりです。1学期も仕上げのこの時期に、学級での学習や給食、美化などへの取り組みも見ていただいて、頑張っているこどもたちを励ましてやっていただけたらと思います。6年生の保護者の皆さんには案内を差し上げているところですが、もし、お時間がありましたら、わたしたちの羽合小学校へおいでいただければ喜びます。来賓玄関で受付をしています。

羽合小学校 寺谷英則